

① 自助・共助・公助について



※災害時におけるイメージ

境港市内自治会数：99 団体（平成 30 年 4 月 1 日現在）

○自治会とは

一定の区域に住む住民がお互いに連携・協力して、安心・安全で心豊かに暮らすために住民自らが組織する団体。その地域に必要なことを見出し、話し合い、実践する組織であり、日常生活に最も身近な組織といえる。

○自治会加入の必要性

行政の情報のみならず地域の細かい情報など、身近で必要不可欠な情報を入手できる。また、防災、子育て、高齢者支援、防犯、交通安全など個人や家庭だけでは解決が難しい課題について、地域や行政、関係機関と協力しながら解決していくことができる。

特に、近年全国各地で頻発する災害などの体験談から、主体的な近隣支援が注目されている。地域での助け合いは、行政ではまかないきれない、手の届かない部分を補う意味でもとても重要となっている。

○自治会加入世帯数の推移

年度	日本人世帯	外国人世帯	合計世帯数	自治会加入世帯数	加入率
平成22年度	14,754 世帯	285 世帯	15,039 世帯	※1	10,919 世帯 72.60%
平成23年度	14,834 世帯	282 世帯	15,116 世帯		10,860 世帯 71.84%
平成24年度	14,915 世帯	294 世帯	15,209 世帯		10,934 世帯 71.89%
平成25年度	14,826 世帯	※3 325 世帯	15,151 世帯		10,927 世帯 72.12%
平成26年度	14,888 世帯	※3 303 世帯	15,191 世帯		10,954 世帯 72.11%
平成27年度	14,898 世帯	※3 305 世帯	15,203 世帯		10,865 世帯 71.47%
平成28年度	14,849 世帯	※3 306 世帯	15,155 世帯		10,749 世帯 70.93%
平成29年度	14,816 世帯	※3 337 世帯	15,153 世帯		10,738 世帯 70.86%

※1 数値は各年度の5月1日現在のものを使用。自治会加入世帯数調査の基準日が5月1日現在であるため。

※2 平成24年度までは、日本人世帯のみの数で加入率を算出し、公式のものとしていた。

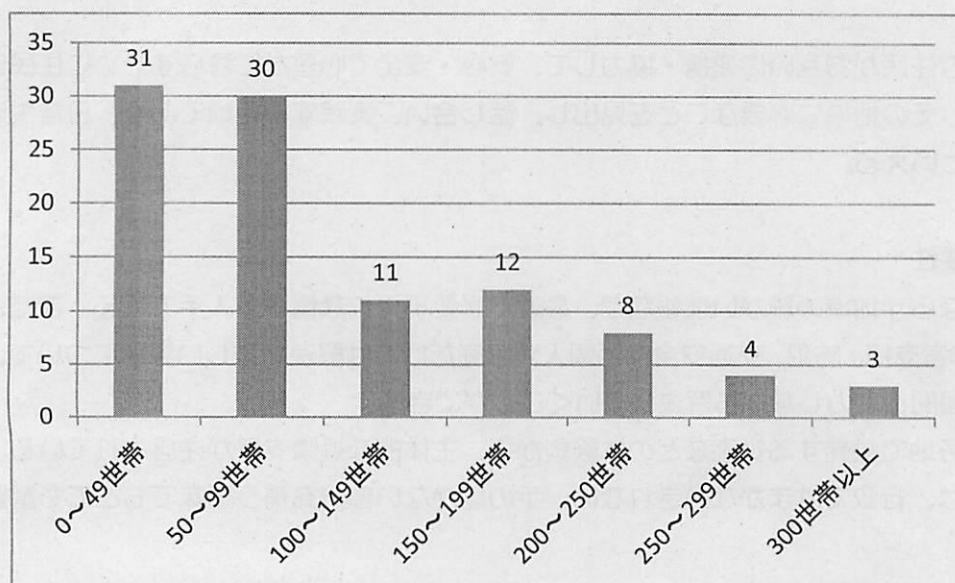
※3 外国人住民についても、日本人と同様に、住民基本台帳法の適用対象に加え、外国人住民の利便の増進及び市町村等の行政の合理化を図るための、「住民基本台帳法の一部を改正する法律」が平成24年7月9日施行。

【参考】米子市自治会加入率：64.3パーセント（平成26年5月現在）

鳥取市自治会加入率：67.3パーセント（平成27年5月現在）

倉吉市自治会加入率：79.5パーセント（平成27年度）

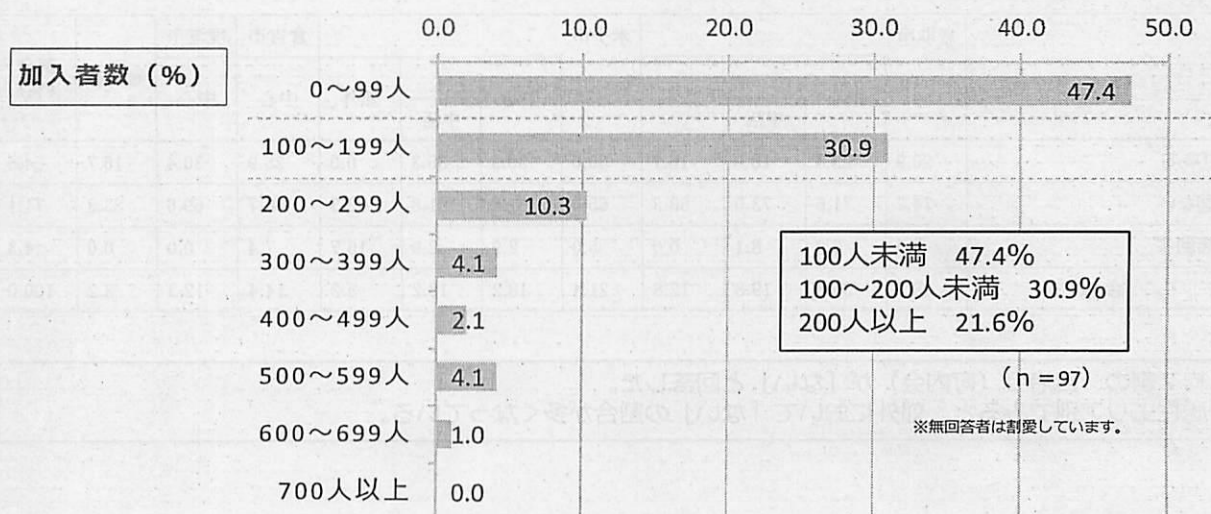
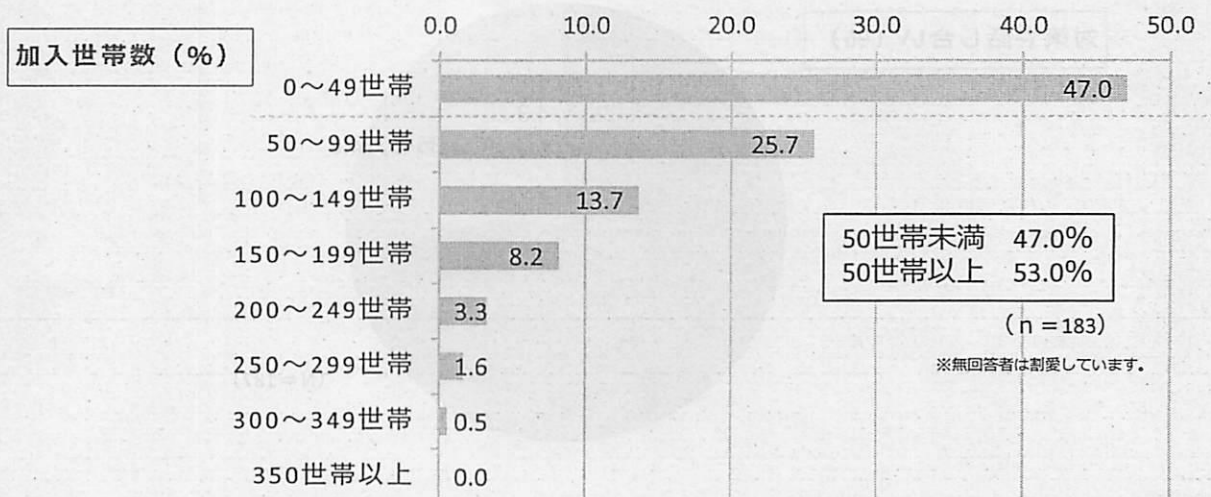
○加入世帯数の分布



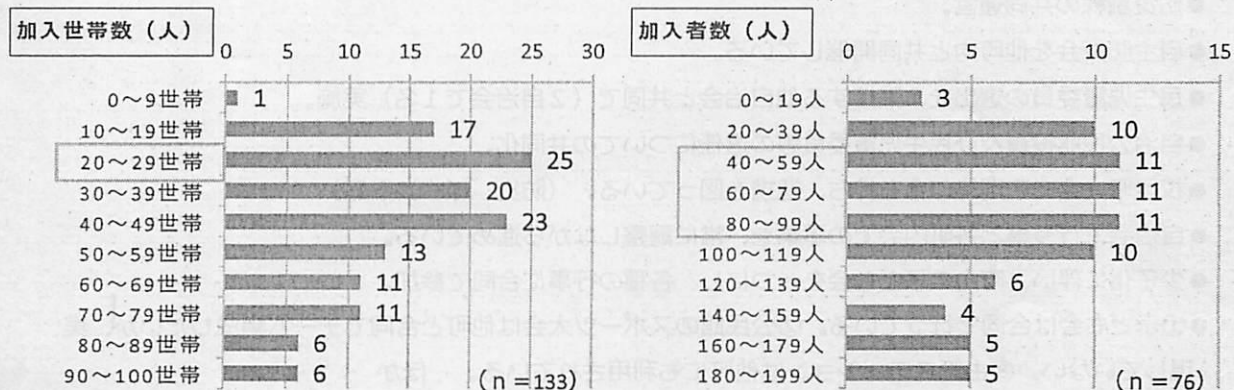
※市内99団体 最大720世帯、最少6世帯（20世帯以下が16団体）

1、自治会（町内会）の状況

1-1）自治会（町内会）の加入世帯数、加入者数



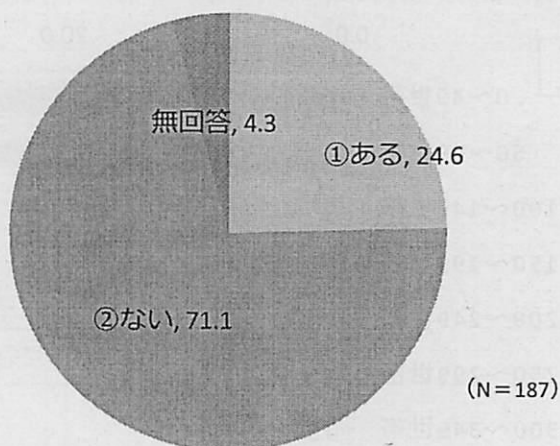
※加入世帯数100世帯未満、加入者数200人未満の自治会（町内会）の内訳



加入世帯数は20~29世帯が最も多く、加入者数は40~99人が最も多い。

→自治会（町内会）との間で共同化することについての対策や話し合い

対策や話し合い（％）



共同化への対策や話し合い／居住エリア（％）

	鳥取市				米子市				倉吉市	境港市	無回答	割合（％）
	中心	中活	郊外		中心	中活	郊外		中心	中心		
①ある	20.9	22.4	18.9	16.7	30.0	35.3	35.3	0.0	25.9	30.4	16.7	24.6
②ない	74.7	71.6	73.0	83.3	65.0	61.8	61.8	83.3	66.7	69.6	83.3	71.1
無回答	4.4	6.0	8.1	0.0	5.0	2.9	2.9	16.7	7.4	0.0	0.0	4.3
合 計	48.7	35.8	19.8	12.8	21.4	18.2	18.2	3.2	14.4	12.3	3.2	100.0

約7割の、自治会（町内会）が「ない」と回答した。
居住エリア別でみると、郊外において「ない」の割合が多くなっている。

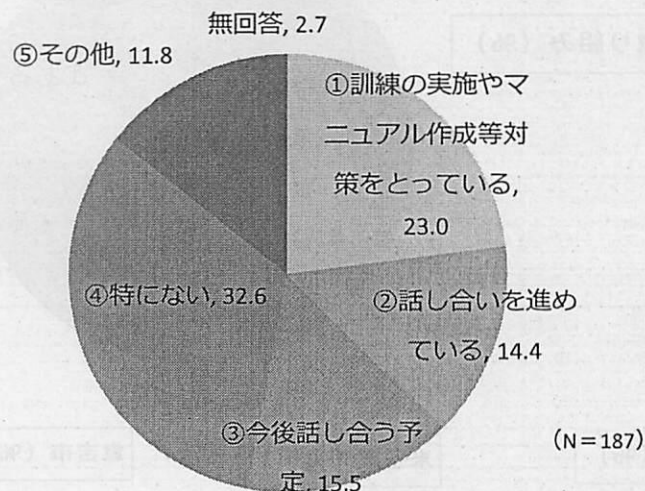
「①ある」と回答された方の具体的な内容

- 防災訓練の共同運営。
- 自主防災会を他町内と共同開催している。
- 民生児童委員の選出を、隣接する他自治会と共同で（2自治会で1名）実施。
- 自治公民館役員及び民生児童委員等の選任についての共同化。
- 校区町内会で定期的に会を持ち、連携を図っている。（防災、イベント等）
- 自治会で行う事と各町内会での事業を、常に調整しながら進めている。
- 少子化に伴い、町内の子ども会を一つにし、各種の行事に合同で参加。
- ①子ども会は合同で行っている。②公民館のスポーツ大会は他町と合同でチーム編成したいが、実現していない。③古紙ステーションは他町にも利用されている。ほか

2、くらしの安心

2-1) 地震・火災・大雪等の災害を想定した、自治会（町内会）における対策や話し合い

対策や話し合い（％）



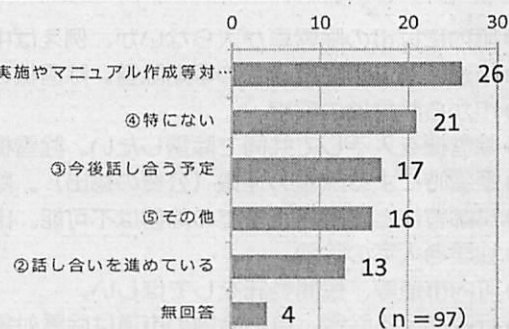
対策や話し合い／居住エリア（人）

	鳥取市				米子市				倉吉市	境港市	無回答	回答数(人)	割合(%)
	中心	中活	郊外		中心	中活	郊外		中心	中心			
①訓練の実施やマニュアル作成等対策をとっている	32	23	15	9	4	3	3	1	5	2	0	43	23.0
②話し合いを進めている	15	11	5	4	5	4	4	1	4	2	1	27	14.4
③今後話し合う予定	9	5	3	4	8	6	6	2	8	4	0	29	15.5
④特にない	22	17	9	5	14	14	14	0	7	14	4	61	32.6
⑤その他	11	10	5	1	6	4	4	2	3	1	1	22	11.8
無回答	2	1	0	1	3	3	3	0	0	0	0	5	2.7
合 計	91	67	37	24	40	34	34	6	27	23	6	187	100.0

対策・話し合い ※50世帯未満（人）

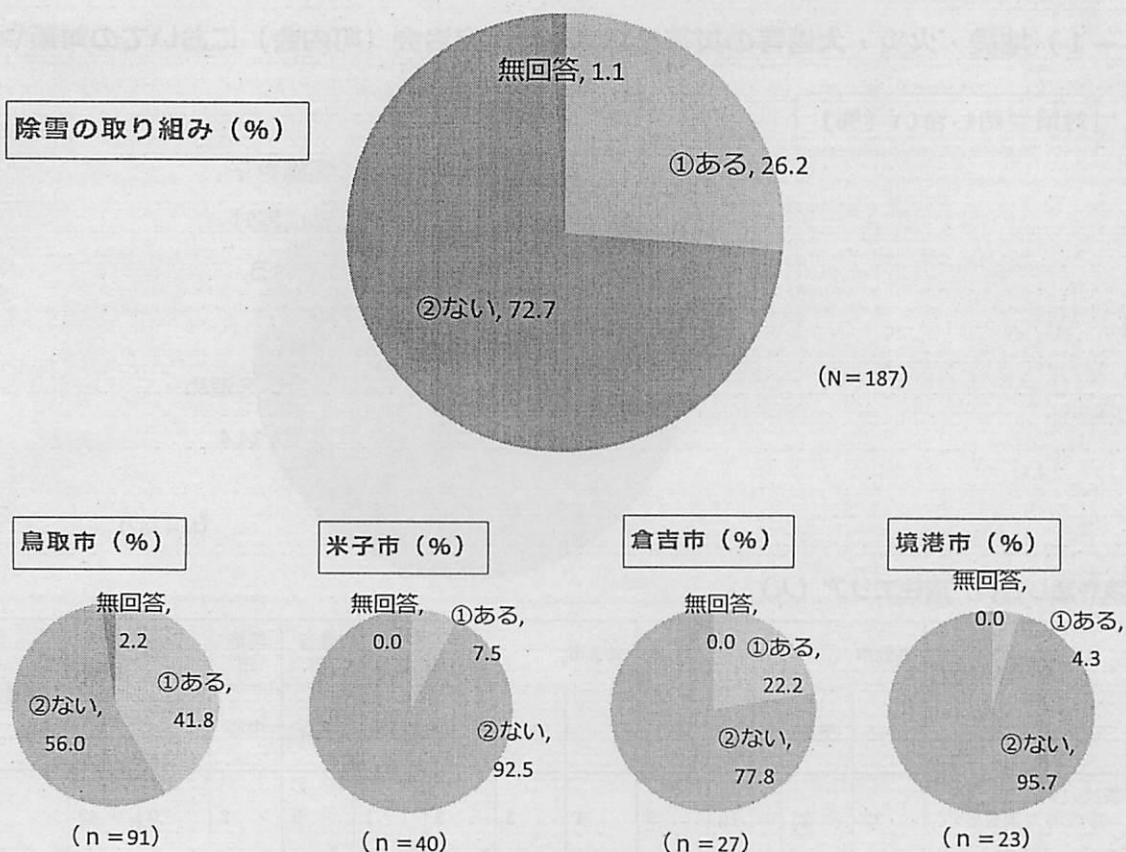


対策・話し合い ※50世帯以上（人）



「特にない」が32.6%と最も多く、次いで、「訓練の実施やマニュアル作成等対策をとっている」が23.0%となった。
世帯数別でみると、50世帯未満は「特にない」が最も多く、50世帯以上では、「訓練の実施やマニュアル作成等対策をとっている」が最も多い。

2-4) 自治会（町内会）で行っている除雪の取組の有無【H29新規】



約7割（72.7%）の自治会（町内会）で除雪の取り組みが行われていない。
 居住地エリア別にみると、米子市及び境港市は「ない」の割合が高くなっている。
 また、鳥取市は「ある」が他エリアに比べ多く、平均値を大きく上回っている。

今後あればよいと思う取り組み

- 町内には市の除雪車が入らないが、例えば中型車等の配備で各町内会の道路の除雪をお願いしたい。
- 市道、県道の主要道路の早期除雪。除雪機の貸与。
- 市から除雪機の斡旋。
- 除雪機を入手して共同で除雪したい。除雪機の購入（借り入れ）。
- 豪雪時による除雪の運搬（公費の捻出）。除雪機等の借り上げ等。
- 高齢者にとって道路までの除雪は不可能。出来れば他力（ボランティアとか行政とか）を期待する。
- 独居老人宅の除雪。
- 町内市道等、民間委託をしてほしい。
- 行政による除雪。自治会内の市道は除雪対象となっていないが、老人が多く、除雪が進まず非常に困った。
- 行政の除雪が間に合わない場合、町内の建築業者さんへ依頼し、後で行政が費用を補てんするシステム。
- 若桜橋のような融雪装置。
- 除雪対応可能業者との中期契約（積立金等により） ほか

【参考資料】

○鳥取県 まちなか生活実態調査報告書（平成 29 年 10 月）

○調査対象 鳥取市、米子市、倉吉市、境港市から指定した 16 地区（境港市は境地区）
187 地区から回答

○調査結果（困りごと、不安に思っていること 自由記述）抜粋

- ・人口減少、高齢化により公民館活動等をはじめ、各種の役員、委員の確保が大変。
- ・若者、子どもがいない。
- ・会員数の減少で継続事業の実施が不安。経費の縮小に取り組んでいる。
- ・役員の仕事量増加のため、勤労世代が役員になりづらい。
- ・個人情報教えてもらえない。誰が住んでいるのかわからない。
- ・小学校統合により地域の活動が消滅。
- ・街中に若者を定住させる施策（住居、土地等の入手支援、就活の支援、帰省・帰郷等への支援など）を行政と地域が一体化して進めていけるような施策を打ち出してほしい。
- ・高齢化と一人住まいが増加し、会費負担が重荷になっている。
- ・町内役員に会社員がいない。退職者、自営業者で構成。会社でもコミュニティー活動休暇等を与え、もっと地域貢献してもらいたい。
- ・災害が発生したとき、昼間助ける人がいない。自助、共助ができない。
- ・高齢者のみの町内となり、将来空き家が増える。

平成30年3月16日
自治防災課

「大雪時の自治会、自主防災組織における除雪や要配慮者等への対応について」
アンケート集約結果報告

◆対象団体数：111団体（自治会・自主防災組織）

◆回答数：74団体（66.7%）

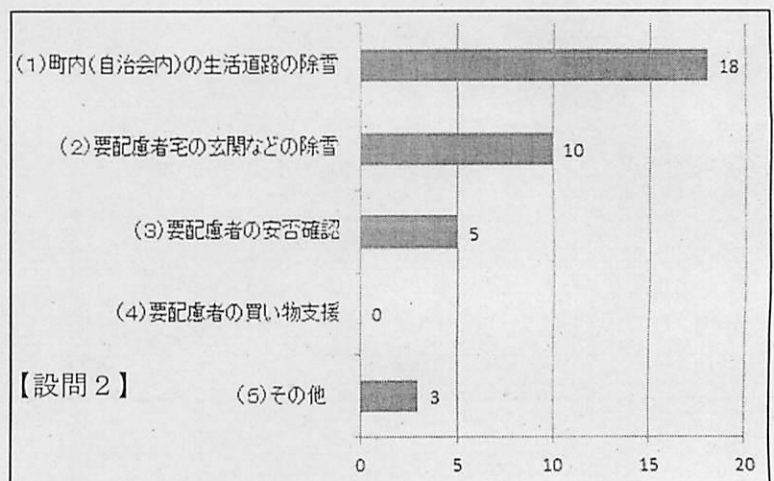
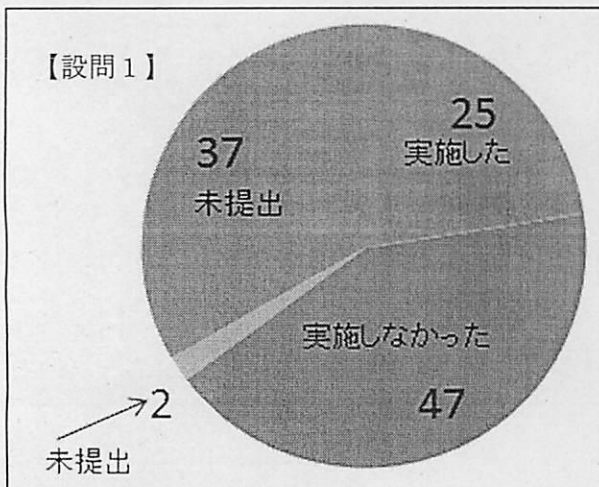
※平成30年3月15日 現在

1 【設問1】 町内の除雪や要配慮者等への支援の実施について

(1) 実施した	25団体	(33.8%)
(2) 実施しなかった	47団体	(63.5%)
・無記入	2団体	(2.7%)
合計	74団体	
※未提出	37団体	

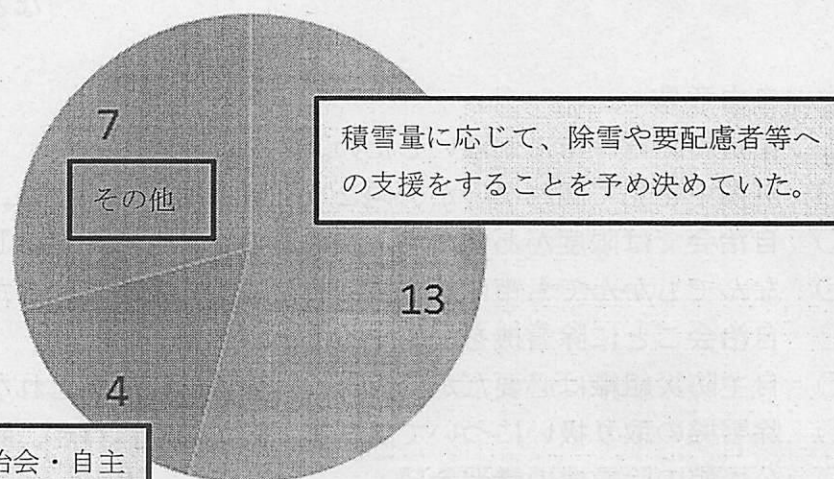
2 【設問2】 支援の内容について ※複数回答

(1) 町内（自治会内）の生活道路の除雪	18	}	回答 36件
(2) 要配慮者宅の玄関などの除雪	10		
(3) 要配慮者の安否確認	5		
(4) 要配慮者の買い物支援	0		
(5) その他	3		
・交差点、消火栓の除雪	1		
・枝道の出入り口の除雪	1		
・ゴミステーションの除雪	1		



3 【設問3】除雪等の活動を行った「きっかけ」や「理由」について

- (1) 積雪量に応じて、除雪や要配慮者等への支援を
することを予め決めていた。 13
- (2) 今回の大雪の状況をみて、自治会・自主防災組
織で協議して行うことを決めた。 4
- (3) 地域住民（自治会員）の要望を受けて行うこと
を決めた。 0
- (4) その他 7
- ・自主的な判断 4
 - ・主要道路へのアクセス確保のため 2
 - ・近くに除雪車がいたため頼んだ 1



今回の大雪の状況をみて、自治会・自主防災組織で協議して行うことを決めた。

4 【設問4】今後、大雪時における生活道路の除雪や要配慮者（一人暮らし高齢や障がい者世帯など）宅の除雪、安否確認などの活動について、貴会ではどのように考えているか。

- (1) 対応できる 18件

【具体例】

- 1位 除雪 9件
- 2位 安否確認、買い物支援 3件
- 3位 状況を見て対応協議、現在検討中 2件

- (2) 人手など条件が整えば、できるだけ対応できる 20件

【具体的例】

- 1位 生活道路の除雪、要配慮者の安否確認、除雪 6件
- 2位 近所付き合いで声掛け、助け合い 2件

(3) 対応できない 30件

【理由の例】

1位	人手が足りない、高齢者が多いため	17件
2位	自宅で精一杯	3件
同	呼び掛けをしていない、組織として活動していない	3件

(4) その他 9件

【内容】

- ・防災意識の中に除雪がないので、今後要検討
- ・買い物等の支援は準備不足、今後検討したい

など

5 主な自由意見

- 市道の除雪は市にお願いしたい。
- 町内中を見て回れないが、向こう三軒は助け合いたい。
- 自治会では限度があります。狭い道のことも考えてほしい。
- なんでもかんでも市に頼まずに自治連でも考えていきたい
- 自治会ごとに除雪機を配備することが必要
- 自主防災組織は必要だが、人員、訓練等に時間がとれない。
- 除雪機の取り扱いについて課題有 誰が借りに行き、除雪し、返却するか。
- 公民館の除雪機の講習希望。
- 町内からの除雪の要望はなかったが、小路の除雪は町内でやるべきだと思う。